

平成24年2月

春木朋広 学位論文審査要旨

主 査 西 村 元 延
副主査 井 藤 久 雄
同 清 水 英 治

主論文

Geminin expression in small lung adenocarcinomas: Implication of prognostic significance

(小型肺腺癌におけるジェミニン発現と予後との関連)

(著者：春木朋広、庄盛浩平、濱本佑樹、谷口雄司、中村廣繁、井藤久雄)

平成 23 年 Lung Cancer 71 巻 356 頁～362 頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は肺腺癌におけるGemininの発現と臨床病理学的因子及び予後との関連を検討したものである。その結果、Western blot法で肺癌細胞株におけるGeminin発現を認めた。また、免疫組織化学で3 cm以下の小型肺腺癌組織標本におけるGeminin発現を認めた。Geminin発現は、リンパ節転移や胸膜浸潤などの局所浸潤性との関連を認め、またGeminin高標識率群はGeminin低標識率群に比べて有意に予後不良であった。多変量解析では、Geminin高標識率は独立した予後不良因子であった。本論文の内容は、Gemininの肺腺癌における予後予測因子としての有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。